

子の年に当たって



客員 相談役 藤井 基之

新年明けましておめでとうございます。

昨年7月の参院選では、日本調理師連合会の皆様には大変厚いご支援をいただき感謝申し上げますとともに、残念ながらご期待にお応えすることができず、真に申し訳なく存じております。その後、ご支援いただいた皆様から、今一度、国政を目指せとの暖かなご声援をいただき、改めて再挑戦させていただくことを決意いたしました。この新しい年、再起に向けて活動を進めてまいります覚悟でございます。

さて、今年はねずみ年。ねずみ算という言葉があるように、ねずみは繁殖力が強いことで知られています。急速に少子化が進む日本にとっては、誠におめでたい干支を迎えたわけですね。

江戸時代のはじめに、吉田光由という数学の先生がいました。その先生が記した「塵劫記」という数学書に、その「ねずみ算」について次のように説明されているそうです。「正月にねずみ、父母いでて、子を十二ひきつむ、親ともに十四ひきに成也。此ねずみ二月には子も又子を十二匹すつむゆえに、親ともに九十八ひきに成。かく

のごとく、月に一度ずつ、親も子も、孫もひ孫も月々に十二ひきすつむむとき、十二月の間になにほどに成ぞといふときに、二百七十六億八千二百五十七万四千四百二ひき」と増えてゆく。要するに、正月夫婦2匹だったねずみが、年末には276億匹強になるというわけですね。数学書ですから、吉田先生の意図するところは、「等級数」という数式を教えているわけですが、いずれにしても、ねずみの繁殖力の強さを示す象徴的なものといえます。

日本の人口もねずみのように増えれば、少子化問題など苦もなく解決するのですが、そうは行きません。何年前か前、生物学者の本川達雄先生が、「ゾウの時間 ネズミの時間」という本を書かれました。先生は、「哺乳動物の身体のサイズと時間とは、ある定まった関係がある。その動物種の大きさによって、時間の流れる速さが異なる」という学説を紹介されています。

例えば、ゾウのように大きな動物では時間はゆっくり流れ、ネズミのような小さな動物では時間は早く進む。心臓がドキン、ドキンと鼓動する時間を比べてみると、

体重の大きなゾウはゆっくり打ち、一方、小さいネズミは鼓動が速い。ところが、ゾウとネズミの寿命を比べると、ゾウは100年ぐらい、ネズミは3年ぐらいですが、この寿命の長短にかかわらず、実は一生の間の心拍数は、いずれも約15億回だそうです。呼吸数もまた約2億回と同じ。

つまり、心臓が鼓動し、呼吸し、妊娠し、子供を産み、その子供が成長し、といった生体の営みの中身は、寿命の長短にかかわらず同じである。ただそれが、速く進むか、遅く進むかの違いだけで、哺乳動物は全て同じ営みを繰り返している。時計で数える時間では、ゾウの一生の方がネズミより長いけれども、ネズミもゾウの一生分と同じだけの生を十分生きているというわけです。

先日、私の知人の愛犬が17歳で老衰のため死んだそうです。犬は人間に比べ、6倍から7倍ほどの速さで成長

し、老化していくそうです。ですから、この犬の17歳という年は、人間でいうと100歳以上に当たるとい計算になります。犬は若死にしたわけではなく、まさに天寿を全うしたことになります。というわけで、ねずみは1年間で2匹が276億匹になるかもしれないけれど、ねずみより2〜300倍も大きな人間には無理な話です。せめて、ねずみ年にあやかって、国の少子化対策が効果を発揮し、今年こそ沢山の赤ちゃんが誕生することを祈りたいと思います。干支は60年で一巡しますが、今年は、「戊子」の年ということで、干支の最初の年に当たるそうです。つまり「新規巻き直しの年」であるわけです。私も生まれ変わったつもりで、このねずみ年を「飛躍の年」にしたいと思っています。

ふじい もとゆき 藤井 基之

- 生年月日 昭和22年3月16日
- 選挙区 参議院比例区
- 当選回数 1回
- 出生地 岡山県岡山市
- 趣味 音楽・読書
- 個人ホームページ <http://www.mfujii.gr.jp/>
- その他 薬学博士・薬剤師
- 私の政治信条
私の政策の柱はA(エイジフリー)B(バリアフリー)D(ドラッグフリー:薬物乱用のない社会)社会造りです。
高齢者も、障害を持つ方も、国民誰もが安心して暮らし、元気で生活を送ることのできる長寿社会を創るために何が必要か、を政治活動の根底においています。
好きな言葉「昨日の夢は、今日の希望、そして明日の現実」
- 活動報告
参院議員厚生労働委員会理事として、食品安全確保のための食品衛生法改正、健康増進法改正、薬事法改正、薬剤師法改正、クリーニング業法改正、国民年金法改正等に関与。
- 経歴
昭和37年 岡山大学教育学部附属中学校卒業
昭和40年 岡山県立岡山操山高等学校卒業
昭和44年 東京大学薬学部薬学科卒業
昭和44年 厚生省入省
平成9年 厚生省退官
平成9年 財団法人 ヒューマンサイエンス 振興財団専務理事
平成12年 日本薬剤師連盟副会長
社団法人 日本薬剤師会常務理事
平成13年 参議院議員
平成16年 厚生労働大臣政務官 (平成16年9月~平成17年11月)
- 党・県連関係役職
自民党厚生関係団体、労働関係団体副委員長
自民党新聞局次長
自民党医療基本問題調査会、薬事行政のあり方検討小委員会事務局長
- その他役職
昭和大学薬学部 客員教授
共立薬科大学 客員教授
東邦大学薬学部 客員教授
新潟薬科大学 客員教授
千葉大学薬学部 非常勤講師
京都薬科大学 客員教授
日本薬剤師連盟 相談役